

写真

価値語

伝えたい価値



心を向け 五感で聴く

人（ひと）が話す（はなす）ときには、相手（あいて）に体（からだ）と心（こころ）を向（む）けよう。そして、相手の話すようすを見（み）たり、言葉（ことば）を味（あじ）わったりと、耳（みみ）だけじゃなくて、体のいろんなところを使って（つかって）聴（き）こう。



人のためだからこそ 頑張れる

「あの人(ひと)によろこんでほしい」、「みんなの笑顔(えがお)が見(み)たい」...
自分(じぶん)のためだけじゃなく、誰か(だれか)のために行動(こうどう)するときほど、人は
思った以上(おもったいじょう)の力(ちから)を出(だ)せる。相手(あいて)がよろこんでくれると、
自分もうれしくなるから。相手が笑顔になると、自分も笑顔になるから。



働く人＝動き続けられる人

人(ひと)のために、黙々(もくもく)と動(うご)き続(つづ)けられる人こそ、真(しん)の「働きもの(はたらきもの)」。最後(さいご)の最後まで、動き続けられる人になろう。



頭の距離＝心の距離

友(とも)だちといっしょに過(す)ごしていると、ついつい頭(あたま)が近(ちか)づいていく。頭を寄(よ)せ合(あ)えるっていうことは、心(こころ)も寄せ合(あ)えるっていうこと。こんなに頭を近づけられる君(きみ)たちは、きっと心の距離(きょり)も近づけられているんだね。



高学年の責任

君(きみ)が今(いま)教(おし)えていることは、きっと数年前(すうねんまえ)に君が教えてもらったこと。あのときの優(やさ)しい記憶(きおく)をもとに、今度(こんど)は自分(じぶん)たちが伝(つた)える番(ばん)。そしていつか、この子(こ)が高学年(こうがくねん)になったとき、君の優(やさ)しさがよみがえるにちがいない。



共に学ぶ 友に学ぶ

教室（きょうしつ）は、一人（ひとり）で学（まな）ぶだけの場所（ばしょ）ではない。「教室で学ぶ」ということは、「仲間（なかま）と共（とも）に学ぶ」ということ。そして、「仲間から学ばせてもらう」ということ。それが自然（しぜん）にできる君（きみ）たち、素敵（すてき）だね。



手はつなげ ないけど 心をつなげる

「手(て)をつなぐ」という、当たり前(あたりまえ)のこともなかなかできない今(いま)だけど、それでも私(わたし)たちは、心(こころ)をつなぐことができる。相手(あいて)を思(おも)いやることができる。

私たちの心のつながりは、コロナ(ころな)になんて絶対(ぜったい)負(ま)けない。



「自助力」をレベルアップ!!

大(おお)きな災害(さいがい)が起(お)きたとき、自分(じぶん)の命(いのち)を守(まも)るのは自分自身(じぶんじしん)。訓練(くんれん)でできないことが、本当(ほんとう)の災害(さいがい)のときにできるわけがない。だからこそ、訓練(くんれん)には、めあてをもって取り組み(とりくみ)、きちんとふりかえろう。そして、自分を助(たす)ける力(ちから)「自助力(じじょりょく)」を高(たか)めていこう。



「当たり前以上」の意識

休(やす)み時間(じかん)に、黒板(こくばん)を消(け)すのは当たり前(あたりまえ)。でも、自分(じぶん)を成長(せいちょう)させたい気(き)もちが強(つよ)い人(ひと)は、その「当たり前」に満足(まんぞく)しない。それが「当たり前以上(いじょう)」。それが、「凡事一流(ぼんじいちりゅう)」。その意識(いしき)が、必(かならず)君(きみ)を成長させる。



「学ぶ」は「真似ぶ」から

仲間（なかま）の良（よ）さを、その子（こ）だけのものにするのはもったいない。高学年（こうがくねん）の良さを、高学年だけの良さにするのももったいない。「良い」と思（おも）ったら、真似（まね）したらいい。だって学校（がっこう）は「友（とも）に学（まな）ぶ場所（ばしょ）」だから。「学ぶ」ことは、「真似」することから始（はじ）まるから。



物を整える ⇔ 心を整える

6年生(ねんせい)が片付(かたづ)けたリコーダー(りこーだー)の様子(ようす)です。心(こころ)がおだやかで落ち着いて(おちついて)いるから、こうして整理(せいり)して片付けられるのでしょう。逆(ぎゃく)に、物(もの)をていねいに扱(あつか)い、整(ととの)えることによって、心が落ち着いてくることもあるのかもしれないね。



「ひとり」じゃない

ピンチ(ぴんち)のとき、自分(じぶん)のことなどニの次(にのつぎ)に、手(て)を差(さ)し伸(の)べてくれる仲間(なかま)がいる。言葉(ことば)で、行動(こうどう)で、「大丈夫(だいじょうぶ)?」っていうメッセージ(めっせえじ)を伝(つた)えてくれる。「このクラス(くらす)でよかった。」と思(おも)える、幸(しあわ)せな瞬間(しゅんかん)。



マスクをとる 距離もとる

熱中症予防（ねっちゅうしょうよぼう）のために、外（そと）ではマスク（ますく）をとろう。今（いま）までマスクでかくれていた、友（とも）だちの笑顔（えがお）が見（み）られてうれしいね。でもそのかわり、友だちとの距離（きょり）をとることも忘（わす）れずに。大丈夫（だいじょうぶ）。心（こころ）の距離までは、離（はな）れていかないから。



6年生にならって

この様子(ようす)は、どうして生(う)まれたのだろう。
答え(こたえ)は1つ。6年生(ねんせい)がお手本(てほん)を見(み)せてくれるから。6年生がいつでも、「凡事一流(ぼんじいちりゅう)」の姿(すがた)を見せてくれるから。大宮小学校(おおみやしょうがっこう)の良(よ)き伝統(でんとう)は、こうして生まれていくんだね。



こんなクラスはうらやましい

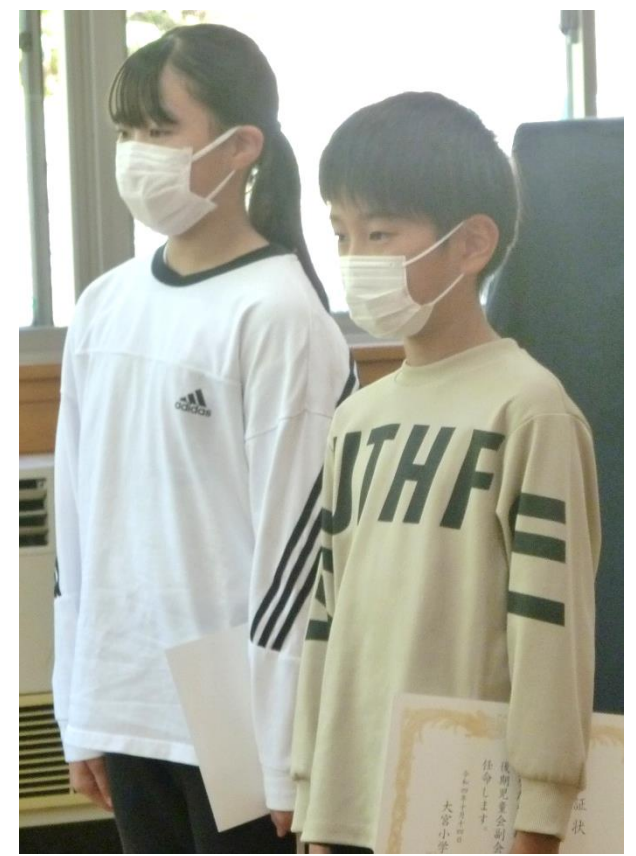
お昼休(ひるやす)みに廊下(ろうか)を歩(ある)いていると、3年生(ねんせい)の教室(きょうしつ)でなにやら楽(たの)しそうなことをやっている。どうやらみんなで集(あつ)まって、ジェスチャーゲームをやっているみたい! 笑顔(えがお)はあるけど、みんなの目(め)は真剣(しんけん)。

こんな楽(たの)しいことをみんなで真面目(まじめ)にできるクラスはうらやましい!



非日常こそ 成長のチャンス

担任(たんにん)の先生(せんせい)がいない,いつもと予定(よてい)が変(か)わった...いつもの生活(せいかつ)とはちがう,そんな非日常(ひにちじょう)の場面(ばめん)こそ,自分(じぶん)たちの力(ちから)の見(み)せどころ。また,自分たちの力を高(たか)めるチャンス。ピンチをチャンスと考(かんが)え,今(いま)できる精一杯(せいいっぱい)の力でがんばろう!



堂々と立つ 堂々と話す

教室（きょうしつ）などの慣（な）れた場所（ばしょ）だけではなく、「たくさんの人（ひと）の前（まえ）」や、「公（おおやけ）の場（ば）」でも、堂々（どうどう）と立（た）ち、堂々（どうどう）と話（はな）せる力（ちから）を付（つ）けていこう。



ひざを汚せる人=そうじの達人

そうじをしたあと、ひざが汚(よご)れているのは、君(きみ)が一生懸命(いっしょうけんめい)そうじをしたから。自分(じぶん)の服(ふく)や手(て)が汚れることなんて気(き)にもせず、ゆかにひざや手をついて精一杯(せいいっぱい)そうじをしたから。そんな君はまちがいなくそうじの達人(たつじん)。そのひざの汚れを誇(ほこ)ろう。



気づいたらやる 言われる前にやる

1年生(ねんせい)のさつまいものつるに気づいた6年生が、自分(じぶん)の判断(はんだん)で一輪車(いちりんしゃ)にのせ、捨(す)てに行(い)った。誰(だれ)に言われるでもなく、誰が見(み)ているでもない状況(じょうきょう)でこそ、その人(ひと)の真価(しんか)が問(と)われる。どんなときも、仲間(なかま)を想(おも)い、仲間のための行動(こうどう)ができる自分でいたいね。



頼れる背中

この背中（せなか）で、全校（ぜんこう）のみんなを引っ張って（ひっぱって）きた。下級生（かきゅうせい）は、この背中を見（み）て大切（たいせつ）なことを学（まな）ぶ。最高学年（さいこうがくねん）としての責任（せきにん）ある行動（こうどう）を続（つづ）けてきたからこそ、みんながこの背中についてきてくれる。頼（たよ）れる背中ってカッコイイ。



言葉の力

「まだまだいけるよ。」「〇回(かい)までいったやん。すごいやん。」
たった一言(ひとこと)で、心(こころ)に勇気(ゆうき)がわいてくる。「がんばろう」ってきもちになれる。言葉には、人(ひと)の心を動(うご)かす力がある。【仲間(なかま)を幸(しあわ)せなきもちにさせる言葉】であふれる学校(がっこう)を、みんなで作(つく)っていこう。



感謝！完食！

食べ物(たべもの)に, 作(つく)ってくださった方(かた)に, 感謝の気持(きも)ちを持(も)つことで, 食べ方(かた)は自然(しぜん)と変(か)わる。感謝して食べよう。残(のこ)さず食べよう。



心のスイッチをオン!!

心には、見(み)えないけれどたくさんスイッチがある。「話(はな)すときのスイッチ」,
「聞(き)くときのスイッチ」,「書(か)くときのスイッチ」... この写真(しゃしん)のみんな
は、「待(ま)つときのスイッチ」がしっかり「オン」になっているね。

今(いま),何(なん)のスイッチをオンにするとよいのか,よく考(かんが)え,切(き)りか
えられる人(ひと)になろう!



その積み重ねが力に変わる

今日(きょう)だけ頑張(がんば)っても、今(いま)だけ一生懸命(いっしょうけんめい)やっても、君(きみ)の成長(せいちょう)にはつながらない。大事(だいじ)なのは、それを積(つ)み重(かさ)ねていくということ。毎日(まいにち)、ほんの少(すこ)しの頑張り(がんばり)を続(つづ)けていくことで、花(はな)も人(ひと)も、大(おお)きく成長(せいちょう)していくんだね。



いつでも どこでも 誰とでも

この仲間（なかま）と一緒に（いっしょ）に、これまで頑張（がんば）ってきた。手（て）と手を取（と）り合（あ）って、共（とも）に成長（せいちょう）してきた。「いつでも、どこでも、誰とでも」協力（きょうりょく）し合（あ）える、この最高（さいこう）の仲間を、これからも大切（たいせつ）にしていこう。これからも一緒に歩（あゆ）んでいこう。



手間をかける⇒質を上げる

このひと手間で、みんなのそうじが1ランクアップする。ほんの少(すこ)しのことかもしれないけれど、これもまた、学校(がっこう)みんなのための仕事(しごと)。一人ひとりが少しずつみんなのためになることをしているから、誰(だれ)もが気(き)もちよく過(す)ごせる学校になっていくんだね。



立つ鳥 跡を濁さず

6年生(ねんせい)が、卒業前(そつぎょうまえ)に学校(がっこう)のいろいろな所(ところ)をきれいにしてくれた。自分(じぶん)たちが過(す)ごした学校を、きちんときれいにして飛(と)び立(た)とうとする姿(すがた)は、なんて素敵(すてき)なんだろう。最後(さいご)まで私(わたし)たちのリーダーでいてくれた6年生に、精一杯(せいいっぱい)の拍手(はくしゅ)を贈(おく)ろう。